

FLY MIX (フライミックス) コトブキ工芸

Photos/N.Hashimoto、コトブキ工芸

魚にも広がる昆虫食ムーブメント 時流にもマッチした昆虫原料フード

環境負荷の小さい次世代のタンパク源として、にわかにな注目を集めている昆虫食。その波は魚の餌の分野へも波及しつつあるようだ



フライミックスの主原料であるアメリカミズアブの幼虫。外骨格がなく柔らかい素材の特性は製品にも受け継がれ、消化吸収の良さや嗜好性の高さにつながっている

教えてくれたのは コトブキ工芸 企画部 山口修平さん

ZOOMを使ったオンライン取材でフライミックスの良さを教えてくれた山口さん。人工飼料に餌付きにくい魚にオススメとのこと

るのもこだわりだ。モノ由来の脂質やアミノ酸、つなぎ成分などもすべて天然成分だけで作られているのだ。製造時に加わる熱も最低限に抑えているため、含有ビタミンへの影響も少ないなど、魚の確実な成長につながる餌なのだという。なお、防腐剤などはもちろん、色揚げ成分も入っていない。サーモン由来の脂質やアミノ酸、つなぎ成分などもすべて天然成分だけで作られているのもこだわりだ。

フライミックス熱帯魚用



熱帯魚用はグッピーや小型魚用の小粒、一般的な熱帯魚用の中粒、シクリッドなど用の大粒の3つの粒サイズを設定。いずれも浮上性で原材料、成分の組成は同じ。色揚げ成分は入っていないが、健康に育つため、その魚本来の美しさが引き出される。小粒はメダカにもオススメ

小粒 45g ¥1,320 125g ¥2,805

中粒 45g ¥1,320 125g ¥2,805

大粒 100g ¥2,805

※価格はすべて税込み

昆虫を原料に使うメリットはいろいろあるが、まず安全であること。原料のアメリカミズアブ幼虫は厳正に管理された工場で生産されており、その餌にも人の食用としても使えるレベルの野菜などが用いられているのだとか。フライミックスの原料となるのは幼虫だが、抗菌ペプチドを持つ幼虫は病原菌への耐性があり、その影響も受けにくい。さらにその親である成虫には口がなく、飲食に由来する雑菌などの影響もない。つまり、非常に衛生的に製造されているということ。そしてその生産サイクルはたった2週間ほどという短さ。短時間で安定的かつ持続的な供給が可能となっている。天然資源に由来する魚粉では、原料となる魚資源の減少の影響を受け、供給量の変動や価格の上下動が起こるが、アメリカミズアブに関してはそうした心配も少ない点も大きなメリットだ。SDGsが叫ばれる昨

フライミックス底魚用



コリドラスやローチなど底性魚用の沈下性フライミックス。雑食性のものが多い底性魚用ということもあり、熱帯魚用よりも植物質原料が多めの構成になっている。粒サイズは小粒とスティック状の2タイプ。プレコなどにもオススメのこと

小粒 45g ¥1,320

スティック 130g ¥3,113

※価格はすべて税込み

今、まさに時代にマッチした飼料と言えらるだろう。しかし、ユーザーが気になるのは、よく食べるか」という点だと思いが、そこは問題ない。嗜好性の高さはフライミックスの最大の特徴、というか自慢のポイントだからだ。とにかく食いつきがいいのだという。同社内で行なったテストでは、フライミックスを与えたことのないワイルドデイスカスに給餌したところ、テストに参加した7割近くの個体が食べたという結果だったそうで、その他にも人工飼料を食べなかつた個体が食べようになつたなどの話は多くの例があるという。そもそも、虫を好んで食べる魚は多く、成虫も幼虫も餌として好まれるものであるからして、嗜好性の高さも頷けるところ。話を聞かせてくれたコトブキ工芸の山口さんも「人工飼料を好まない魚にぜひ、試してみしてほしい」と自信をのぞかせていた。